

リスニングでトラブル

公立高入試 藤井寺工科、全員正解

府内の公立高校で10日に実施された2021年度入試の一般選抜は、国語、数学、英語ではA問題(基礎)、

B問題(標準)、C問題(発展)の3種類があり、各校ごとに選択した。理科と社会は共通問題。合格発表は18日。

府教育委員会によると、府立藤井寺工科高校で英語のリスニングテスト中に放送機器のトラブルがあり、スク립トの一部が聞き取りにくくなった。該当箇所に関連する3問(配点11点)は受験した1855人を全員正解にする。

題傾向を聞いた。

国語C 本文、設問ともに読解力が必要だった。空欄補充の記述問題は、前後の言葉で解答を推測できるが、高い表現力が求められた。作文は資料を基に、明確に意見を伝えられるかがポイント。古文は打ち消し表現に注意しながら読み進めると大意を把握できる。

数学C 大問1は小問集合、大問2は関数、大問3は平面・空間図形だった。記述問題は昨年同様、関数と図形の証明2題で難易度も変わらなかった。休校の影響で三平方の定理が出題範囲から外れ、平面・空間図形ともに相似を活用する問題が中心だった。

英語C 読むスピードに加えて、複雑な英文の構造を理解する力が求められた。読解問題ではグラフや図表から正確な情報を読み解き、正解を導かせた。英作文は意見を裏付けるため、自身の経験を交えて書く必要があった。リスニングは、聞き取った対話文を要約する問題が出題された。

関西を中心に展開する進学塾「第一ゼミナール」は、C問題を中心に各教科の出

を裏付けるため、自身の経験を交えて書く必要があった。リスニングは、聞き取った対話文を要約する問題が出題された。

理科 身近な自然の現象を題材にした観察や実験の結果を基に、考察力を問うた。使い切りカイロの仕組みや突堤の利点に関する問題では、表面的な理解ではなく、「なぜ、そうなるのか」という科学的な思考力と判断力が必要だった。

社会 例年に比べて地理・歴史分野の割合がやや高かった。議院内閣制や栽培漁業について説明させたり、経度差など条件を整理して日の出時刻を計算したりするなど、グラフや資料から必要な情報を選択し、知識と結びつける力が試された。

A問題 国語では、本文中の説明を図に置き換えて選択させる問題があった。数学の難易度は例年並み。各単元の理解度を幅広く確認する内容だった。英語は英文が昨年より長く難化した。実際の会話の場面を想定した出題もあった。

B問題 国語の記述問題は、指示内容を追加するなど工夫が求められた。数学は相似を活用したり、平面と直線の位置関係を理解したりする必要があった。英語は「モンゴルの民族衣装や」和「*tsukushi*」といった伝統文化を題材にしていた。

2021年3月11日(木)

読売新聞 朝刊